

特 定 部 会

部 会 長

国立療養所鈴鹿病院

河 野 慶 三

今年度の当部会の研究課題は3題であった。そのうち2題は、中島ら（南九州病院）と向山ら（鈴鹿病院）からの、両地区における筋萎縮性疾患の実態調査の年次報告である。したがって、ここで特別にとりあげるような目新しい知見はないが、中島らの報告によると、宮崎、鹿児島、沖縄地区では、神経・筋疾患類縁の遺伝性疾患患者が新たに発掘されている。

他の1題は、片桐ら（新潟療養所）の女性にみられるDuchenne 型類似例の家系図調査の報告である。

彼らは、12の症例の臨床像と家系図の分析を行なった。血族結婚は4例、兄弟に男子のDuchenne型患者がいる者5例、女子のDuchenne 型類似例のいる者1例で、孤発例は2例のみであった。これらの結果から、12例中9例は常染色体劣性遺伝の形で発症したものと推定された。

周知のように、筋ジストロフィーの分類では、遺伝形式の決定が診断確定の重要な要素の一つとなっているが、これは臨床上なかなか困難な作業でもあるわけで、女性のDuchenne 型類似例のように臨床像そのものにかかなりのバラツキのある対象の場合には、さらにその困難さが増加することになる。いずれにしても、女性のDuchenne 型類似例についての研究は始まったばかりの段階であるので、今後積極的なとりくみの必要な領域であると考えられる。

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

今年度の当部会の研究課題は3題であった。そのうち2題は、中島ら(南九州病院)と向山ら(鈴鹿病院)からの、両地区における筋萎縮性疾患の実態調査の年次報告である。したがって、ここで特別にとりあげるような目新しい知見はないが、中島らの報告によると、宮崎、鹿児島、沖縄地区では、神経・筋疾患類縁の遺伝性疾患患者が新たに発掘されている。